



Eiche

Die Eiche ディ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

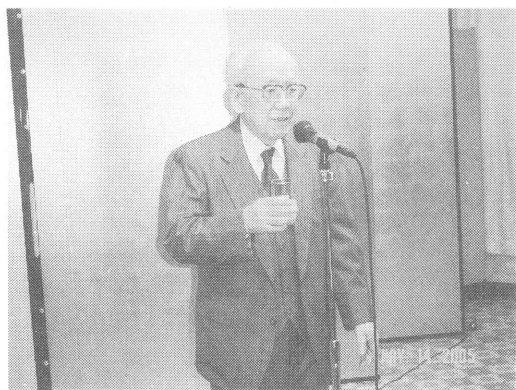
2005年 年次総会開催

平成17年5月14日(土) 2:30~5:30PM

於 西船フローラ 33名



講演するベッカー社長



乾杯の音頭をとられる小野寺顧問

本年の総会は、西船フローラにて開催された。

冒頭、1月に逝去された当協会顧問の常木實顧問に対して全員で黙祷を捧げた後、日独国歌を斉唱して総会を開始。鈴木淑弘常任理事を議長に選出、恒例により国枝副会長が平成16年度事業報告、下川会計担当が決算報告、金谷専務理事が平成17年事業計画及び予算を発表し承認された。更に、今年度は日本におけるドイツ年と当協会創立10周年記念を合わせた事業を行なう為の特別予算を組んだことで行事内容に関しては、橋口常任理事より発表された。ドイツ年行事実施に関し、ドイツ政府から2,500ユーロの助成金がもらえることになっており、その結果

※ドイツ年行事予算：積立金50万円+2,500ユーロ
(合計約80万円)

※ディ・アイヘ10周年記念号他：30万円

となった。総会終了後、15:10よりNRWジャパン(株)のアストリッド・ベッカー社長による講演「現在のドイツ事情」が流暢な日本語で行なわれた(下記)。終了後、別室で小野寺顧問による乾杯で懇親会が行なわれ17:30に解散。(総会資料ご希望の方は事務局迄)

現在のドイツ事情

NRWジャパン(株)
社長 アストリッド・ベッカー

ドイツはこれまでの数年間不景気な時期に直面して来た。三年間連続マイナス成長率を経験したが、二〇〇四年の成長率は一・七%に上がった。二〇〇五年も一・五%ぐらいの成長が期待されたが、ドイツの主要な六つの経済研究所は今年の成長率を〇・七%に修正した。下方修正に様々な要因があるが、相変わらず希望通りに進まない構造改革とそれに伴うなかなか改善しない失業率が最大の原因になっている。

このような背景に対して、ドイツ政府は福祉改革から去年施行された「アジェンダ二〇一〇」による二〇〇四年の課税制度改革及び今年導入される労働市場改革関連法「ハーツリフオーム」によって経済基盤を強化し、または将来に向かって持続可能な社会の基盤を設立しようとしている。

これまでの改革の成果について、政府側は肯定的評価、経済界は改革の実施を評価しつつも更なる改革を希望しており、世論は改革の内容・効果を否定的に受け止めており、しかし経済界の場合でも、一般消費者の場合でも、平均的に豊かな生活水準にあっての悩みであることも認めなければならない。

ドイツは相変わらず世界経済大国の中の第三位を占めており、EU内でも最大の経済力を有する。二〇〇四年の輸出は伝統的にドイツ産業を代表する化学製品及び機械の分野だけで九%を占めた。全体では八・二%増加し、ドイツ企業の輸出競争力が強いことを示している。社会面では、社会保障及び教育のインフラはヨーロッパの中でも非常に優れている。ドイツ全体で病院、リハビリセンター等は三千五百六十四箇所、つまり約二十三人に一つが備わっている。

ドイツはイメージアップも必要であることから「日本におけるドイツ2005/2006」のアイディアが生まれた。二〇〇五年四月から二〇〇六年四月にかけてドイツをあらゆる面で紹介するイベントを開催する。中でも、NRW州は様々なプロジェクトを通じ、魅力的な経済のパートナーであり、伝統豊かな文化の地であり、また近代的な教育、研究、投資の立地拠点である。「環境とエネルギー」、「ライフサイエンス」、「文化/デザイン」、「ライプスライル」これらはこの期間中にNRW州が開催するイベントのテーマの、ほんの数例に過ぎません。詳細は www.nrw.co.jp を御覧下さい。

～今後の主な催物案内～

▶ マール・ワークショップ

デュッセルドルフでマーレン(家具の絵付け)を通じて独日友好に尽力されているハーゼンベック夫人を迎えて下記のとおりワークショップを開催しますのでご参加ください。

日時：6月14日(火) 10:00～15:00

場所：国際コンベンションセンター
千葉県国際交流センター
千葉市美浜区中瀬2-6
WBG マリブイースト 14階
043-424-7645

(京葉線海浜幕張駅下車3分)

会費：3,500円(材料費の実費)

持参する物：エプロン

定員：25名

申し込み：布施由未子さん 047-424-7645

橋口昭八常任理事 047-449-0878

▶ 講演会

日時：7月2日(土) 14:30～18:00

場所：喫茶「サン」電話(043)245-1255
JR西千葉駅西口駅前

講演：平尾浩三会長「短歌にみる9・11」

会費：2,500円

— 会費納入のお願い —

平成17年度会費の納入をお願いします。

年会費：個人 3,000円

法人 10,000円

(同封の郵便振替用紙にて)



総会参加者の皆さん

常木実先生を偲ぶ

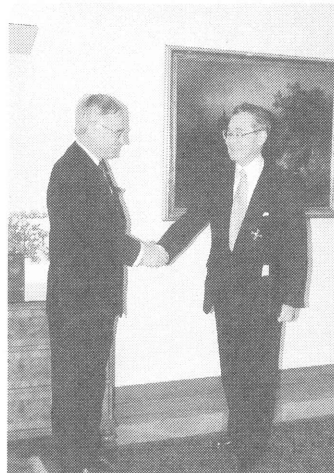
(千葉県日独協会会長) 平尾浩三

駆け出しの助教授として私が就任した頃の東京大学ドイツ語研究室には、まだ個室がなく、教師は二人ずつペアになって一室を共有し、机を向かい合わせておりました。そして私は常木教授のお部屋に潜り込んだのですから、常木先生は私にとって、単にドイツ語教育界の大御所というだけではなく、文字通り身近な先輩であられたのです。当時、東京大学ドイツ語教室はまさに多士済々でありました。富士の峰のごとく屹立しておられる方、母国語は概ね意味不明だがドイツ語はドイツ人も驚く程に流暢な方、酒席で披露される該博な知識に驚嘆させられる方、その道の鬼才だがちょっと気難しい方.....そんな中に身を置かれた常木先生を一言で申せば、教室全体の調和や同僚の生活に濃やかに気を配られる先生であったということです。そして学生の成長をいつも考えられ、学生一人一人のことを実によく覚えておられて、先生のご歓談の中には「あれは僕の教え子でねえ」という表現のしばしば登場したことが思い出されます。

ご出身地の千葉県を愛しておられ、千葉県日独協会設立に際しては大いに尽力されました。同協会初代会長・加藤吉昭先生ご逝去の後、次の会長の人選に皆が迷っていた時、常木先生は私に突如お電話を下さり、「君だよ。逃げちゃ駄目、駄目」との有無を言わさぬお言葉、あれで私も諦めの境地に達したのです。先生は、私が実務に疎い人間であることを十分にご存じでしたから、平尾のような奴は会長にしておいて、ぐるりを有能な人材で固めれば、会がスムーズに運営されるということを見抜いておられたに相違ありません。あのお電話、私が常木先生のご肉声に接した最後の機会であったと思うのです。

万事に心を配られ、温かいお人柄の常木先生も、すでにこの世におられない.....淋しい限りです。

平尾会長がドイツ連邦共和国より勲章を受章



シュミーゲロウ大使と握手する平尾会長

当協会平尾会長への“ドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字賞”伝達式が3月15日11:00より大使公邸で行われた。先ず、シュミーゲロウ大使が平尾会長の功労の詳細について説明し、ケーラー大統領署名の伝達書と勲章を授与。平尾会長より受章挨拶。又、会長の師、日本学士院会員・慶大名誉教授岩崎英二郎氏の祝辞と発声による乾杯で歓談。

式には、ティーデマン文化部長、ゲーペル武官、ピュルシェル女史の他、大学・学会・日独協会関係者・ご家族ら約30名が出席して、会長の受章を祝った。